

道内初札幌協主導

陸上クラブチーム発足 育成

北海道陸上界にトップアスリート輩出を目指した本格的なクラブチームが誕生する。札幌陸上競技協会が主導して、道内外の選手を募集。8人が集まり、20日に発会式が行われる。同協会が資金面や練習環境などでサポート。有力選手の競技続行を支える受け皿の役目も担う。

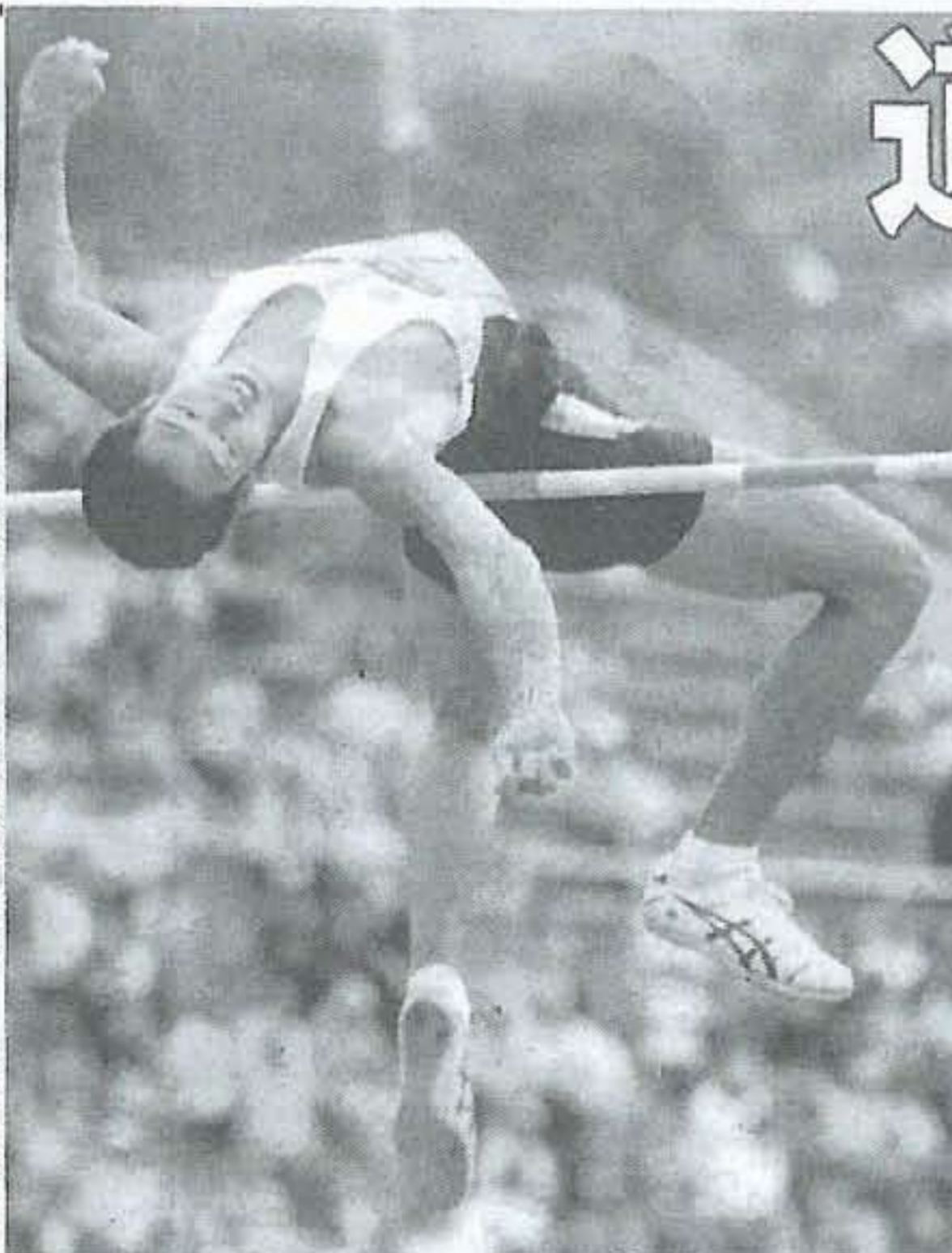
20日発会式

8人で始動 役員ら指導

札幌で本格的な陸上のクラブチームが発足する。札幌陸上競技協会が昨年からの道産子を中心に参加選手を募集。同協会の呼び掛けによって男子短距離選手を中心にメンバー8人が集まり、20日に札幌市内で発会式が行われる。道内で協会主導のクラブチーム設立は初めて。名称やクラブの役員は今後、決定する。同協会の志田幸雄専務理事(69)は「五輪に出るのも夢ですね」と将来の青写真を描く。有力選手の受け皿となる。00年代に入って実業団陸上部の廃部が続出している。高校や大学卒業後、トップ選手をのぞき、恵まれた環境で競技を続行できる選手は一握り。クラブチームの立ち上げは、実力がありながら競技をあきらめざるを得ない選手にとっては朗報となる。メンバーには道産子で実績のある選手が集まった。男子走り高跳び北海道記録保持者

道内外有力選手受け皿に

札幌陸上競技協会が立ち上げるクラブチーム入りする男子走り高跳びの江戸



右代ら所属

◆陸上のクラブチーム 小中学生の育成や市民ランナー向けが一般的。日本ではトップ選手を育成・強化するクラブはまだ少ないが、近年は企業チームの地盤沈下に伴い、クラブチームも各地で発足している。高橋尚子を育てた小出義雄氏は01年に佐倉アスリートクラブを立ち上げ、一時96年アトランタ五輪代表の千葉真子が所属していた。また、10年には実業団のスズキを受け継ぐ形で、地域密着型のクラブを目指すスズキ浜松アスリートクラブが設立。ロンドン五輪男子やり投げ代表の村上幸史や同10種競技代表で札幌第一高出身の右代啓祐が所属している。



男子短距離の仁井

の江戸祥彦(31)や、08年全日本実業団男子1000mで優勝し、元北海道ハイテクACCの仁井有介(29)らが所属する予定。仁井は「今までやってきたことを評価されて声を

掛けてもらってうれしい。選手にとっては所属名がついているとモチベーションが上がる」と喜ぶ。クラブの運営は選手が納める会費のほか、スポンサーを募り、それを活動費に充てる計画だ。現在、スポーツ用品メーカーとの提携も交渉中。同協会も運営資金を援助し、さらに未就労の選手には、中高生への練習アドバイザーなどの活動の場を設け、謝礼を支払うなどで支援するつもり

だ。当面は同協会の役員らが指導にあたり、札幌円山競技場、札幌厚別公園競技場などで練習していく。現時点で選手強化もクラブ運営も手探り状態だが、ゆくゆくは日本のトップ、そして世界選手権、東京五輪へ代表を送り出したい考えだ。志田専務理事は「リレーを組んで、日本選手権でまずは入賞、そして優勝を目指していきたい」と希望を託す。

【保坂果那】